

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 瑞穂会	代表者	手嶋 寛人	法人・ 事業所 の特徴	高齢者家族の利用者・家族が自営業を営んでいる利用者・訪問リハビリを利用されている利用者など多様な利用者を受け入れ在宅生活・在宅介護の支援を行っている。利用者や家族の状態、状況変化や要望に応じての通い・泊りや利用時間の変更等にも柔軟な支援を心掛けている。
事業所名	小規模多機能 やはぎ苑	管理者	後藤 恒祐		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	できている項目を継続し、コロナであってもより良い支援となるように取り組む。	コロナ禍であっても利用者への直接的な支援や介助についてはそれほど影響を受けずに支援を続けることができた。	新型コロナウイルス感染症防止の為、運営推進会議開催できず、意見を頂けず。	事業所自己評価項目を通して多機能での支援の方向性や介助を意識して支援に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者の安全な環境・居心地の良い環境を提供し、職員の働きやすい環境にも配慮する。	利用者の方の安全への配慮と、利用者が求める思いへの配慮とのバランスに苦慮する時もあった。業務の改善等により働きやすい環境へも配慮を行う。	新型コロナウイルス感染症防止の為、運営推進会議開催できず、意見を頂けず。	利用者の思いに配慮しながら、安全で居心地の良い環境整備を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	新型コロナウイルス感染の縮小や収束の際には、日中活動や地域行事への参加等を通して地域との関りを深める。	新型コロナウイルス感染が縮小・収束せず、地域行事等も中止されることが多く、地域との関りは希薄となる。	新型コロナウイルス感染症防止の為、運営推進会議開催できず、意見を頂けず。	感染状況を考慮しながら、日中活動等できる事から地域との関りを深める取り組みを進める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	新型コロナウイルス感染の縮小や収束の際には、地域資源の一つとして町内会や等の様々な機関と連携・協力をする。	はしめ包括とは相談や連携を取ることができたが、他の様々な機関との連携や協力はまだ以前と比べても難しかった。	新型コロナウイルス感染症防止の為、運営推進会議開催できず、意見を頂けず。	はしめ包括や矢田さん（お米作り）等できる所から連携・協力に取り組んでいく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	新型コロナウイルス感染の縮小や収束の際には、運営推進会議通し事業所の取組みや改善点を報告相談する。	運営推進会議が中止され、サービス評価はできなかったが、開催できた時には取組等の報告ができた。	新型コロナウイルス感染症防止の為、運営推進会議開催できず、意見を頂けず。	運営推進会議を通してサービス評価を行い、事業所の取組みや改善点を報告・相談する。
F. 事業所の防災・災害対策	防災訓練を通して、避難誘導や施設の防災設備や備品の運用理解に取り組む。	年に2回の防災訓練を通して避難誘導や通報訓練を行い、防災意識を高めることができた。	新型コロナウイルス感染症防止の為、運営推進会議開催できず、意見を頂けず。	地震や火災だけではなく地域の特性でもある水害についても防災意識を高め訓練を重ねる。